

GHE024-02

会場:301A

時間:5月22日 14:30-14:45

埼玉県秩父における蛇紋岩石材産業の歴史と現状 History and present of the serpentinite quarries in Chichibu area

乾 睦子^{1*}, 岡島 一央¹

Mutsuko Inui^{1*}, Kazuhiro Okajima¹

¹ 国土館大学理工学部

¹ Kokushikan University

蛇紋岩は、大理石と同じように建築石材として用いられ、埼玉県秩父郡皆野町が産地として知られる。とくに国会議事堂に使われた「貴蛇紋」が有名であるが、今はほとんど入手できない。石材についての歴史や現状を記録し保存することは、歴史的建造物保全の見地からも非常に重要であると考え、「貴蛇紋」の採掘の歴史と現状について調査を行った。具体的には過去の丁場の場所と採石業者、貴蛇紋が使われた建造物と年代、現在の国産建築石材産業の現状について明らかにすることを目的とした。

現地でのヒアリング調査の結果、黒に近い濃緑色に網状の白い脈を特徴とするいわゆる「貴蛇紋」は特定の採石場で採掘されたものを指すようであり、その採石場を特定することができたが、数十年前に閉山していた。蛇紋岩体は地質図に記載がなく、大変小規模な岩体であったと思われ、この貴蛇紋が入手できなくなった理由は良材の枯渇であろうと考えられた。一方、この貴蛇紋を使った主な建造物の竣工年より、およそ1920年代～1969年までは貴蛇紋が確実に採掘されていたと推定できた。当時は貴蛇紋以外にも、「蛇紋」(鮮やかな緑色を特徴とする)、「黒王」(黒色が強いのを特徴とする)と呼ばれる銘柄が同地域で採掘されていたことがわかった。

現在の皆野町では「新蛇紋」という銘柄で板材が出荷されているが、採石場は2010年に閉山され、現在は在庫のみの取り扱いである。新蛇紋の出荷量が減少した時期は、国内の石材加工業者の加工設備がスリム化された時期とほぼ一致していた。従って新蛇紋の出荷量の低下は産業構造の変化が大きく影響したと推測できた。

キーワード: 石材, 採石場, 貴蛇紋, 蛇紋岩, 秩父

Keywords: building stone, quarry, Kijamon, serpentinite, Chichibu